

I 鎌倉市水産業振興計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

近年、我が国の沿岸漁業を取り巻く環境は厳しく、資源の減少、魚価の低迷、担い手の不足や高齢化など多くの課題があり、地先の豊かな自然と共存して継承されてきた本市の沿岸漁業においても同様な状況にあると考えています。

このように厳しくなっている水産業を取り巻く様々な課題に対応していくとともに、本市の水産業が将来にわたり継続され、新鮮で安全な地場の海産物が安定的に市民に提供されるためにも、本市水産業の将来あるべき姿を共有するための指針とするために、鎌倉市水産業振興計画（以下「計画」という。）を策定するものです。

2 計画の位置づけと役割

計画は、本市の水産業に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための行政計画となるものであり、また、本市の水産業振興の施策のあり方について整理し、水産業の将来の姿について基本的な施策の方向性と取組むべき内容を示すものです。

3 計画期間

計画期間は、2019年度（平成31年度）から2028年度までの10年間とします。

なお、国の水産業施策の動向などにより、必要に応じて随時見直しを行うこととします。

また、計画の進行管理は、鎌倉市水産業振興計画推進委員会で行います。

4 推進体制

計画に基づき、漁業協同組合、漁業者、関係機関・団体、消費者、行政等が連携し、本市の水産業振興施策を推進していきます。

Ⅱ 鎌倉市の水産業の現状と課題

1 鎌倉市の水産業の現状

(1) 鎌倉市の位置及び地勢

緑豊かな丘陵と相模湾を望む美しい海岸線を有する本市は、神奈川県
南東部、三浦半島の基部西側に位置する歴史的風土の豊かな都市でありま
す。東京駅から約 50 km（電車で約 1 時間）、横浜駅から約 20 km（電車で
約 25 分）の距離にあることから、都内や横浜市内へのベッドタウンであ
ると同時に、古都の風情を感じることもできる首都圏近郊の観光地でもあ
ります。東西 8.75 km、南北 5.20 km、面積は 39.53 km²であり、市域南部の
沿岸は東西に延び、遠浅で弓形の砂浜と急峻な山稜が海際まで迫る海岸線
で構成されています。

(2) 漁業協同組合

市内には、腰越地域にある腰越漁港を拠点とする腰越漁業協同組合と鎌
倉地域の坂ノ下、材木座海岸を拠点とする鎌倉漁業協同組合の二つの漁業
協同組合があり、漁業活動を営んでいます。

ア 腰越漁業協同組合

市の西側に位置する腰越地域には、腰越漁港があり、腰越漁業協同組
合所属の漁業者が利用しています。腰越漁港ではしらす漁やわかめ養
殖、刺し網漁、小型定置網漁などが行われ、取れたての魚が並ぶ月 2 回
の朝市は、大勢の人で賑わいます。

イ 鎌倉漁業協同組合

市の南東側に位置する鎌倉地域の坂ノ下及び材木座地区の砂浜を拠
点として、鎌倉漁業協同組合所属の漁業者が漁業活動を営んでいます。
鎌倉地域でもしらす漁やわかめ養殖、刺し網漁、小型定置網漁などが行
われ、取れたての魚が並ぶ月 1 回の朝市は、大勢の人で賑わいます。

(3) 漁業区域



(4) 漁の種類

漁の種類としては、両漁業協同組合ともに、しらす船曳網漁、わかめ養殖、刺し網漁、小型定置網漁を主体とする沿岸漁業を行っています。

- ・ 定置網漁（1月～12月）
- ・ わかめ養殖（筏）漁（10月～4月）
- ・ 定置網漁（1月～12月）
- ・ たこつぼ、籠漁（1月～12月）
- ・ 刺し網漁（1月～12月）
- ・ しらす船曳網漁（3月～12月）
- ・ 一本釣漁（1月～12月）
- ・ みづき漁（11月～4月）

(5) 漁業施設（漁港）の概況

ア 腰越地域

腰越漁港は、本市唯一の漁港であり、沿岸漁業の拠点として、市民、消費者に対し、新鮮な海産物を提供しています。

腰越漁港は、昭和31年から昭和39年にかけて漁港の基本施設を整備し、昭和39年10月に開港しました。その後、数回にわたり漁港機能向上のための改修事業が行われてきましたが、施設の老朽化及び狭隘化が顕著となったため、平成19年度から改修整備に着手し、平成26年度に完成して現在に至っています。

腰越漁港では、漁港施設の現況等を整理・把握し、施設の長寿命化及び補修更新の適正化を図ることを目的とした腰越漁港機能保全計画

(以下「機能保全計画」という。)を平成 29 年度に策定しました。機能保全計画は、漁港施設の長寿命化を図りつつ更新コストを平準化するため、日常管理や保全・更新時期を盛り込んだ、50 年の期間を想定した計画となっています。今後は、機能保全計画に基づいて、漁港施設の整備・改修を行っていくことになります。

イ 鎌倉地域（坂ノ下及び材木座）

坂ノ下及び材木座地区では、漁港施設が無いいため、砂浜に仮設の漁具倉庫を建て、漁具の保管や網の修理、漁獲物の荷捌きなどを行い、漁船は人力で砂浜から出し入れするという厳しい環境の下で漁業活動を行っています。

近年では、この地区は台風や高潮による海岸浸食が顕著となっており、砂の流出や減少に伴い、荒天時の波による漁具倉庫の破損等の被害が度々発生しています。

このため、台風等の荒天時の漁船避難場所の確保、漁船出入時の安全確保、漁具倉庫の集約化など、この地域の漁業者の操業の安全を確保することが、長年の課題となっています。

(6) 朝市

鎌倉の地魚をいち早く手ごろな価格で地域の人に届けることを目的に、腰越及び鎌倉漁業協同組合では、定期的に朝市を開催しています。

ア 腰越漁業協同組合の朝市

腰越漁港入口で開催

毎月第 1・3 木曜日（3 月は第 3 のみ、12 月は第 1 のみ開催、1・2・8 月は開催せず）

午前 10 時～（売切れ次第終了）

イ 鎌倉漁業協同組合の朝市

鎌倉パークホテル駐車場で開催

毎月第 1 日曜日（1～3 月、8・9 月は開催せず）

午前 10 時～（売切れ次第終了）

(7) 鎌倉市の取り組み

経営の近代化、安定化の促進など、水産業振興を図るため鎌倉・腰越漁業協同組合が行うわかめ養殖事業、販売促進事業、直売事業に対し、事業費の一部を補助しています。

市内の水産物直売所や朝市などを紹介する「かまくら直売所・朝市マップ」を作成・配布し、地産地消の推進を図っています。

鎌倉地域の漁業支援施設の整備に向けて、3次にわたる鎌倉漁港対策協議会及び鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップを開催し、協議を行ってきましたが、施設整備にはいたりませんでした。

2 鎌倉市の水産業の課題

(1) 漁獲量の低下

日本国内の漁獲量は、水産資源の減少や地球温暖化といった海洋環境の変化など様々な要因により、減少傾向にあります。

本市においても、年間漁獲量は、平成21年の347トンから徐々に減少しており、特に平成28年は黒潮等の影響により、養殖わかめの漁獲量が大幅に減少した結果、171トンまで減少しています。

BD⇒【漁獲量 資料1】

(2) 市民が地場海産物を手にできる機会が少ない

市内で水揚げされた漁獲物は、両漁業協同組合が開催する朝市や直売所等を除くと市民が手にする機会は多くはありません。

特に鮮魚は、仲買人経由で市外の市場に出荷されているため、市内に流通する量は少なく、現状、市民が地場海産物を手にできる機会は限られています。

BD⇒【販路 資料4】

(3) 経営基盤の不安定さ

漁業は自然環境に左右されやすく、天候や海況により出漁が制限されるだけでなく、出漁できたとしても安定した漁獲があるとは限らないため、仲買人以外の流通ルートを確保することが困難です。また、豊漁時で

も、漁獲量の増加による魚価の低下など、1次産業だけでは安定的な収入確保が見込めず、経営基盤の安定化が望めません。

(4) 沿岸漁業の継続

漁業は小規模経営体が多いため、世襲色が強く新規参入が難しい仕事の一つとされてきました。しかし、将来にわたり安定的に継続していくためにも、また、培ってきた技術の継承のためにも、担い手の育成や新規就労者の確保が不可欠なこととなります。

BD⇒【漁業就業者数 資料2】

(5) 就労環境の整備

S u pやサーフィンなど海洋性レクリエーションの盛んな場所では、漁業と海洋性レクリエーションの場が交錯することにより接触事故の恐れがあります。

また、坂ノ下及び材木座地区においては、漁港施設がないため、漁のたびに漁船を人力で砂浜から海へ出し入れしています。さらに、荒天時には漁船を安全な場所に移動させなければなりません。そのため、出漁日数の低下など発生しています。

(6) 漁場機能の低下・喪失

相模湾では磯焼けやムラサキウニをはじめとする様々な要因により藻場が喪失しています。このため、本市の漁業区域内の藻場についても維持管理を図ることが求められています。

Ⅲ 鎌倉市の水産業振興の基本方針

【参考】第3期基本計画

(1) 産業振興 ①農業・漁業の振興

◆目標とすべきまちの姿

漁業では漁業施設の改善により、安全・安心な就労環境の改善が進み、新たな担い手や後継者が育成・確保され、将来にわたり安定的に漁業が営まれています。また、つくり育てる漁業の推進による漁獲の拡大や6次産業化への取組が進み、市内への新鮮な魚介類や水産加工品が安定的に供給されています。

◆主な取組

- ・沿岸漁業の振興及び漁業経営の安定化
- ・水産業振興施策の検討
- ・漁業施設の整備
- ・地産地消の推進
- ・鎌倉ブランド事業の推進

1 鎌倉市の水産業の将来あるべき姿

漁業が将来にわたり安定的に継続され、新鮮で安全な地場の海産物が市民に提供されています。

第4期基本計画との整合性を図る

2 施策の方向性

- ・持続的な水産業を営むための環境の整備
- ・市民の水産業への理解の促進
- ・地産地消の推進

3 基本目標

本市水産業の安定的な継続

IV 鎌倉市の水産業振興のための施策

II 2 鎌倉市の水産業の課題 に対応するための検討の方向性を記載しています。

1 漁獲量の拡大

市内の海産物の流通量を増やし地産地消を推進するためにも、漁獲量を確保する必要があります。

2 流通・消費の拡大

地産地消を推進するために、地場海産物が市内に流通するルートを拡大していく必要があります。

3 経営基盤の安定化（6次産業化の推進）

新たな加工品を開発することやこれまで廃棄していた未利用漁等を商品化することは、限られた資源の有効活用になるとともに、漁業者の新たな販路開拓や漁業者の経営基盤の安定化を図ることにもつながっていきます。

ただし、長期的な経営の安定と新たな投資が求められます。

4 担い手の育成・確保

本市の漁業就業者は、県内平均と比較して若い世代が多く、また、女性の新規就業者にも恵まれています。本市の漁業を安定して継続させていくために、新規担い手を育成・確保していく必要があります。

5 就労環境の改善（海洋性レクリエーションとの共存）

鎌倉の漁業の特徴でもある沿岸漁業と海洋性レクリエーションとの共存を図るため、接触事故の防止策等を講じる必要があります。

また、鎌倉地域の漁業を安全で安定的に継続し、地場の水産物の漁獲量を増やし市民に提供することは、地産地消の推進にもつながることから、必要最小限の漁業支援施設を整備し支援する必要があります。

6 漁場機能の回復

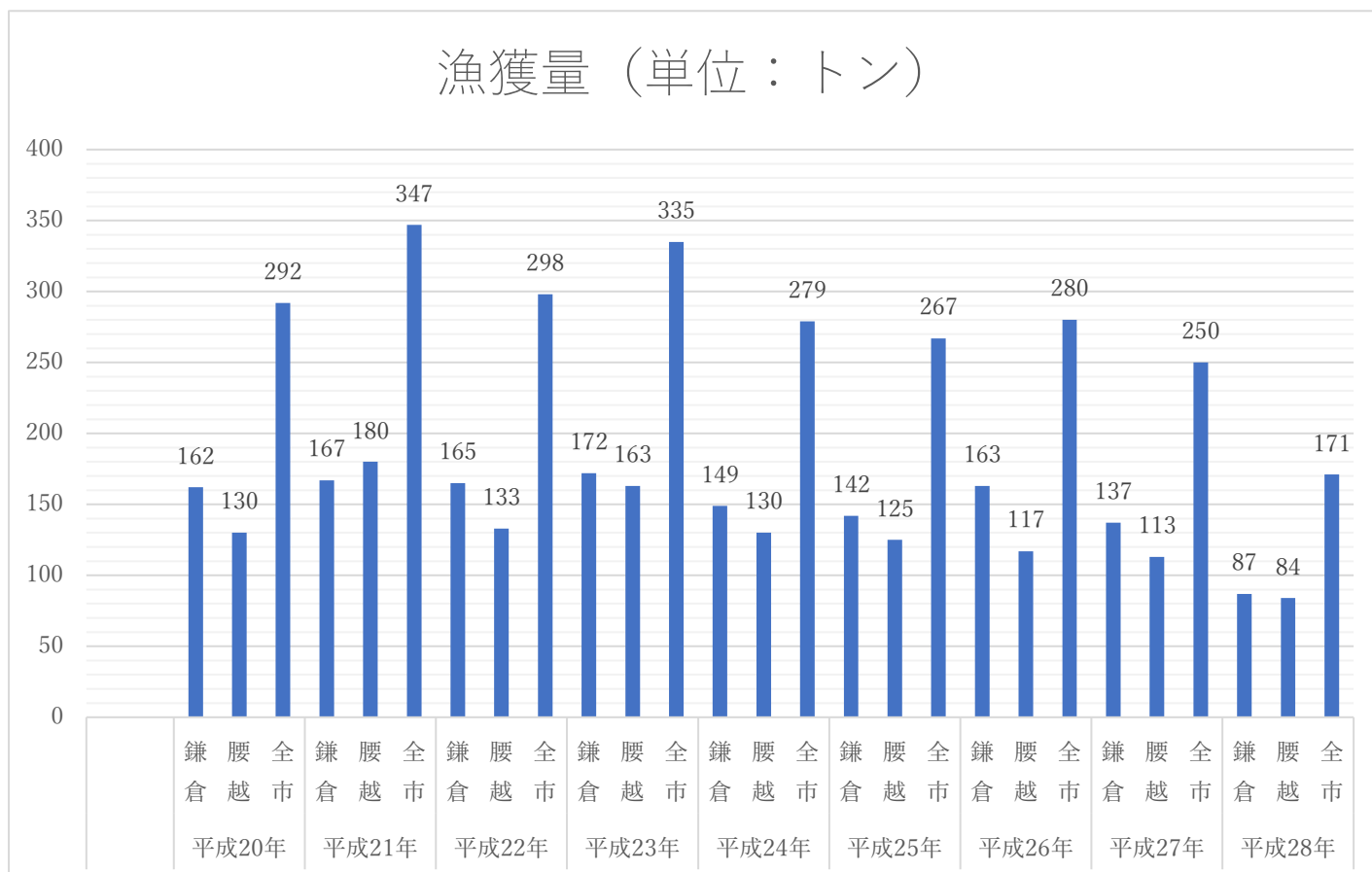
藻場は漁業資源の再生産に必要不可欠な産卵場所であり、稚魚の育成の場となっていますが、磯焼けやムラサキウニをはじめとする様々な要因に

より藻場が喪失しています。このため、藻場の維持管理を図る必要があります。

資料

1 漁獲量

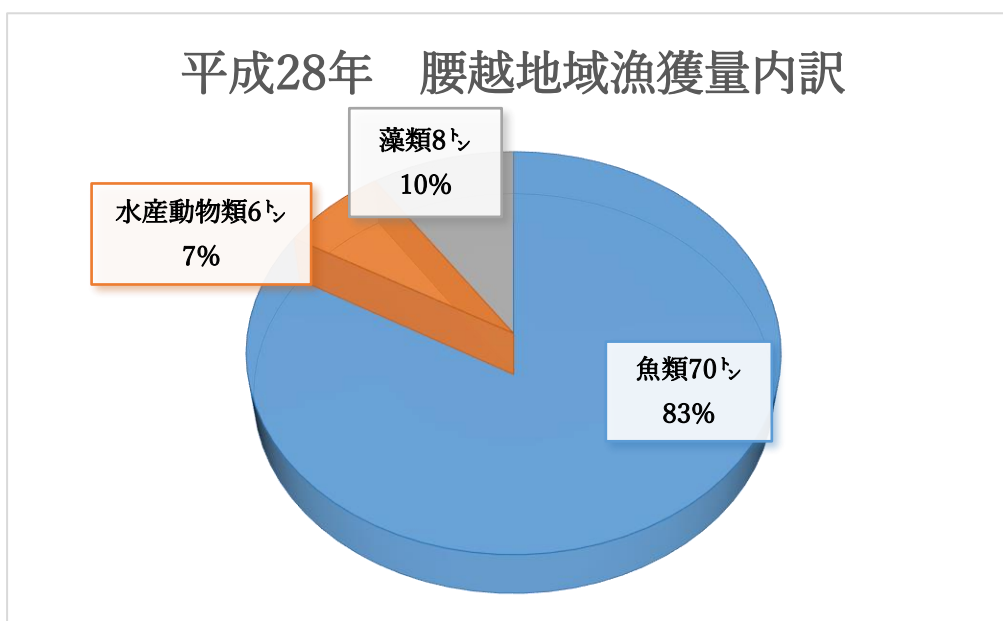
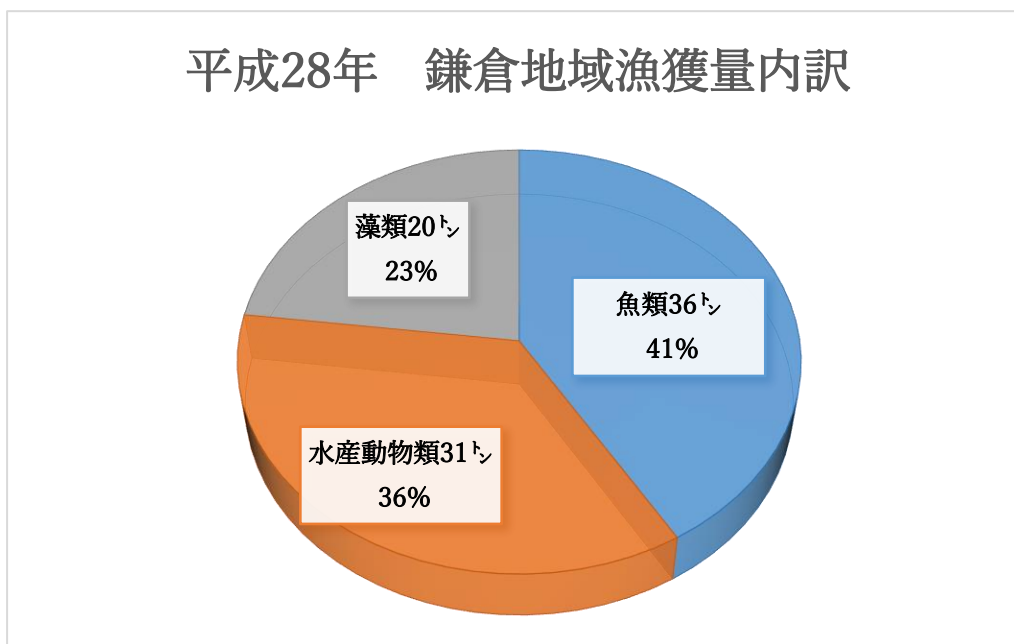
〔図表 1〕 年間漁獲量



○推定漁獲高

平成 28 年当時の魚種ごとの平均卸値単価と漁獲量をもとに漁獲高を推定すると 1 トン当たり約 150 万円でした。これをもとに、本市の漁獲高を推定すると、平成 28 年では約 2 億 6,000 万円となります。

〔図表2〕 漁獲量内訳（地域別）



※水産動物類：イカ類、タコ類、エビ類、貝類など

※藻類：養殖コンブ・ワカメ、天然ワカメなど

〔図表3〕 漁獲量内訳（魚種別）

平成28年漁種別漁獲量

単位:トン

漁獲量 合計	魚類							
	計	いわし類					あじ類	ぶり類
		計	まいわし	うるめいわし	かたくちいわし	しらす		
153	106	89	2	3	1	83	2	1

魚類						
ひらめ・かれい類			たい類	さわら類	すずき類	その他の魚類
計	ひらめ	かれい類				
2	1	1	1	1	1	9

えび類	貝類			いか類	たこ類	海藻類
	いせえび	計	あわび類			
1	24	1	23	2	10	10

平成28年養殖魚種別収穫量

単位:トン

収穫量 合計	海藻類	
	こんぶ類	わかめ類
18	0	18

平成27年漁種別漁獲量

単位:トン

漁獲量 合計	魚類								
	計	いわし類					あじ類	さば類	ぶり類
		計	まいわし	うるめいわし	かたくちいわし	しらす			
171	109	91	0	0	5	86	1	1	2

魚類						
ひらめ・かれい類			たい類	さわら類	すずき類	その他の魚類
計	ひらめ	かれい類				
1	1	0	1	0	4	8

えび類	貝類			いか類	たこ類	海藻類
	いせえび	計	あわび類			
1	35	1	34	3	10	13

平成27年養殖魚種別収穫量

単位:トン

収穫量 合計	海藻類	
	こんぶ類	わかめ類
79	1	78

平成26年漁種別漁獲量

単位:トン

漁獲量 合計	魚類								
	計	いわし類					あじ類	さば類	ぶり類
		計	まいわし	うるめいわし	かたくちいわし	しらす			
208	149	133	1	3	1	128	1	2	1

魚類						
ひらめ・かれい類			たい類	さわら類	すずき類	その他の魚類
計	ひらめ	かれい類				
2	1	1	1	0	2	7

えび類	貝類			いか類	たこ類	海藻類
	計	あわび類	さざえ			
1	33	1	32	3	10	12

平成26年養殖魚種別収穫量

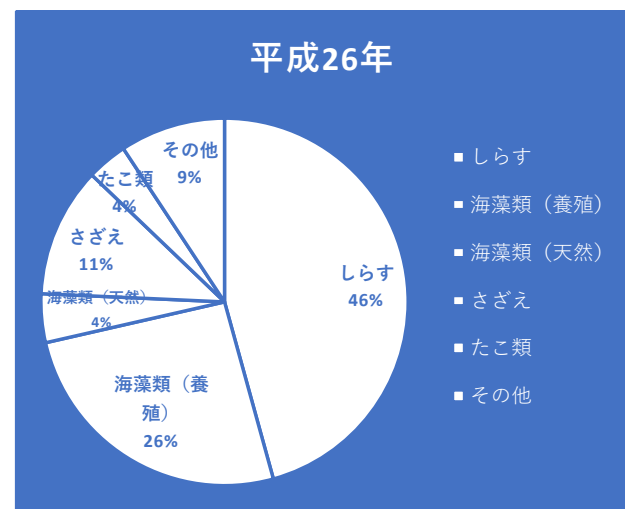
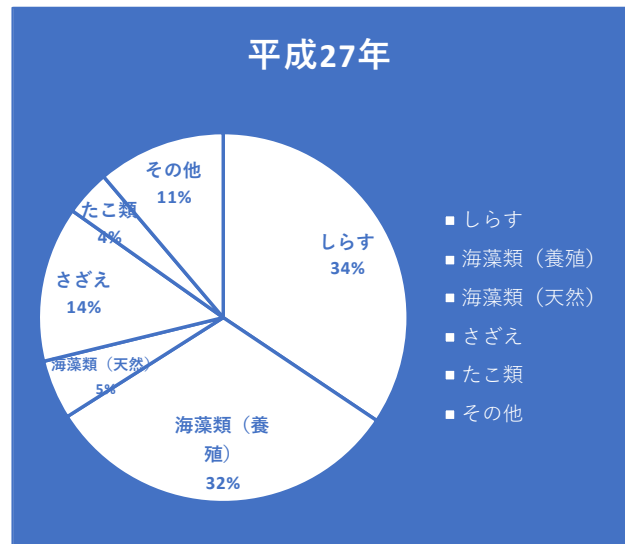
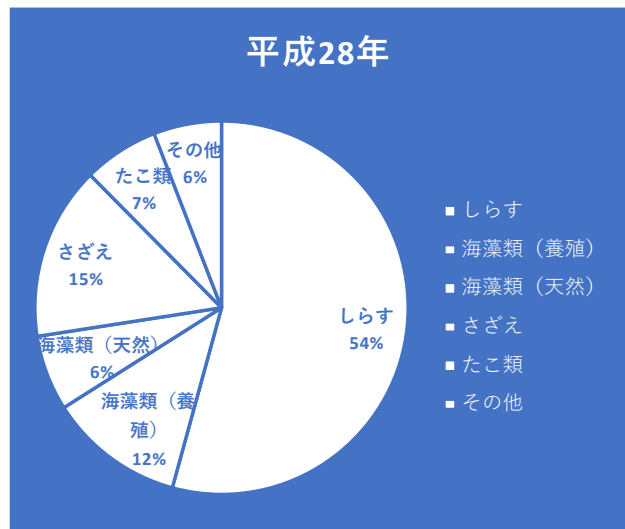
単位:トン

収穫量 合計	海藻類	
	こんぶ類	わかめ類
72	1	71

※農林水産省：海面漁業生産統計調査より

〔図表4〕 グラフ漁獲量内訳（魚種別）

	平成28年	平成27年	平成26年
しらす	83	86	128
海藻類（養殖）	18	79	72
海藻類（天然）	10	13	12
さざえ	23	34	32
たこ類	10	10	10
その他	9	28	26
計	153	250	280



〔図表5〕 漁獲量内訳（漁業種類別）

平成28年漁業種類別漁獲量

単位:トン

漁獲量 合計	船びき網	刺網			定置網		いか釣	その他の釣	採貝・採藻	その他の 漁業
		さけ・ます 流し網	かじき等 流し網	その他の 流し網	大型定置網	小型定置網	沿岸 いか釣			
153	83	0	0	31	0	10	2	3	13	11

平成27年漁業種類別漁獲量

単位:トン

漁獲量 合計	船びき網	刺網			定置網		いか釣	その他の釣	採貝・採藻	その他の 漁業
		さけ・ます 流し網	かじき等 流し網	その他の 流し網	大型定置網	小型定置網	沿岸 いか釣			
171	86	0	0	42	0	9	2	4	17	11

平成26年漁業種類別漁獲量

単位:トン

漁獲量 合計	船びき網	刺網			定置網		いか釣	その他の釣	採貝・採藻	その他の 漁業
		さけ・ます 流し網	かじき等 流し網	その他の 流し網	大型定置網	小型定置網	沿岸 いか釣			
208	128	0	0	38	0	11	1	3	14	13

※農林水産省：海面漁業生産統計調査より

2 漁業就業者数

〔図表6〕 漁業共同組合員数

年	地域名	組合員数(各年12月31日現在)		
		正組合員数(人)	准組合員数(人)	計
平成21年	鎌倉	32	26	58
	腰越	42	17	59
	全市	74	43	117
平成22年	鎌倉	33	24	57
	腰越	42	14	56
	全市	75	38	113
平成23年	鎌倉	31	25	56
	腰越	42	13	55
	全市	73	38	111
平成24年	鎌倉	31	26	57
	腰越	41	13	54
	全市	72	39	111
平成25年	鎌倉	31	26	57
	腰越	40	17	57
	全市	71	43	114
平成26年	鎌倉	31	23	54
	腰越	39	15	54
	全市	70	38	108
平成27年	鎌倉	29	26	55
	腰越	40	16	56
	全市	69	42	111
平成28年	鎌倉	32	23	55
	腰越	42	11	53
	全市	74	34	108
平成29年	鎌倉	30	23	53
	腰越	42	11	53
	全市	72	34	106

※正組合員：1年を通じて90日を超えて漁業を営み又はこれに従事する漁業者

※准組合員：1年を通じて90日を超えない漁業を営み又はこれに従事する漁業者

〔図表 7〕 男女別・年齢階層別漁業就業者数

○2013 年漁業センサスより（平成 25 年 11 月 1 日現在）

合計 単位: 人

地域等	計	計												
		15~19歳	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上
鎌倉	41	1	2	4	1	5	4	2	2	2	3	8	3	4
		2.4%	4.9%	9.8%	2.4%	12.2%	9.8%	4.9%	4.9%	4.9%	7.3%	19.5%	7.3%	9.8%
腰越	46	1	3	2	4	3	7	6	4	2	1	4	3	6
		2.2%	6.5%	4.3%	8.7%	6.5%	15.2%	13.0%	8.7%	4.3%	2.2%	8.7%	6.5%	13.0%
全市	87	2	5	6	5	8	11	8	6	4	4	12	6	10
		2.3%	5.7%	6.9%	5.7%	9.2%	12.6%	9.2%	6.9%	4.6%	4.6%	13.8%	6.9%	11.5%

男性 単位: 人

地域等	計	男												
		15~19歳	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上
鎌倉	31	1	1	4	0	3	4	2	2	2	1	6	3	2
		2.4%	2.4%	9.8%	0.0%	7.3%	9.8%	4.9%	4.9%	4.9%	2.4%	14.6%	7.3%	4.9%
腰越	46	1	3	2	4	3	7	6	4	2	1	4	3	6
		2.2%	6.5%	4.3%	8.7%	6.5%	15.2%	13.0%	8.7%	4.3%	2.2%	8.7%	6.5%	13.0%
全市	77	2	4	6	4	6	11	8	6	4	2	10	6	8
		2.3%	4.6%	6.9%	4.6%	6.9%	12.6%	9.2%	6.9%	4.6%	2.3%	11.5%	6.9%	9.2%

女性 単位: 人

地域等	計	女												
		15~19歳	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上
鎌倉	10	0	1	0	1	2	0	0	0	0	2	2	0	2
		0.0%	2.4%	0.0%	2.4%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.9%	4.9%	0.0%	4.9%
腰越	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全市	10	0	1	0	1	2	0	0	0	0	2	2	0	2
		0.0%	1.1%	0.0%	1.1%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	2.3%	0.0%	2.3%

神奈川県(参考) 単位: 人

地域等	計	計												
		15~19歳	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上
全県	2,273	26	59	86	109	131	188	177	185	185	250	255	264	358
		1.1%	2.6%	3.8%	4.8%	5.8%	8.3%	7.8%	8.1%	8.1%	11.0%	11.2%	11.6%	15.8%

* 漁業就業者：満 15 歳以上で過去 1 年間に漁業の海上作業に年間 30 日以上従事した者

3 漁船隻数

〔図表8〕 漁船隻数・動力漁船トン数規模別隻数

○2013年漁業センサスより（平成25年11月1日現在）

単位：隻

地域等	漁船 総隻数	船外機付 漁船隻数	動力漁船隻数					
			計	1トン未満	1~3トン	3~5トン	5~10トン	10~20トン
鎌倉	43	35	8	3	5	0	0	0
腰越	43	34	9	2	1	5	1	0
全市	86	69	17	5	6	5	1	0

4 販路

〔図表9〕 販路イメージ

